

>> 究極のオンリーワンキッチン実例 17  
ラグジュアリーホテルのバスルーム 6

ML  
MODERNLIVING  
[モダンリビング]

239  
JULY 2018

# ONE & ONLY KITCHEN

オンリーワンキッチンこそ贅沢！

キッチンプランニング講座  
ダイニングテーブル + チェア + 照明  
名デザイナーの手がけたカトラリー  
KITCHEN SHOWROOM完全ガイド



ミラノ・デザイン・ウィーク 2018



ポルトローナ・フラウ

# Poltrona Frau

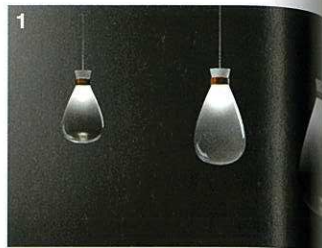
1 ポルトローナ・フラウ初のランプコレクション「Soffi」は、ガムフラテージのデザイン。ハンドメイドの吹きガラスの球体ランプ。2 ロベルト・ラッゼローニのキャビネット「Fidelio Multimedia」。卓越した革の仕上げが空間の格を上げる。3 ガム・フラテージの「Castlavie」。革で編んだかご部分と細い金属の脚の組み合わせが軽やか。4 ヘッドボードに革のシートが張られたロベルト・ラッゼローニによるエレガントなベッド「Lola Darling」。



## 老舗ブランドが挑戦する軽快なスタイル

今年ポルトローナ・フラウが目指したのは「軽やかさ」。“軽さ”とは「住むこと」を活動的にするために必要な設計方法の基準のひとつで、実はこのブランドの伝統でもあるという。安定した強さと細身で軽やかさを併せもつ家具。ここからさらなるラグジュアリーが生まれた。

ポルトローナ・フラウ東京青山  
http://www.idc-otsuka.jp/poltrona-frau-tokyo-aoyama/



デドン

# DEDON

## フレキシブルに進化するアウトドア家具

アウトドアリビングを快適にする家具を秀逸な素材とデザインで発信し続けるデドン。今年は屋外・屋内を問わず自由に使えるアイテムがさらに増え、アウトドア家具のポーダレス化が加速した印象。会場では、置かれただけで高級リゾートを感じられる製品の實力を再認識した。

ニチエス <https://nichiesu.com>



1 「MBRACE」は包み込まれるようなデザインが人気のチェア。今年は、バルト海ブルーとソルトホワイトの2色が新たに加わった。2 シンプル、ゴージャス、ラグジュアリーそして快適という言葉のすべてが当てはまるソファ「BREA」。同一モジュールを組み合わせ、フレームと共にクッションの取り外しが可能。組み合わせやレイアウトも自由に替えられる。3 デンマークとイタリアのデザインユニット、ガムフラテージを新デザイナーに迎えた「AIR」は、ポリプロピレンの座面とチークレッグ。屋内外どちらでも活用できる。

カール・ハンセン & サン

# CARL HANSEN & SØN

## 復刻が語りかける、マインドリセットという癒し

会場では“ミラノで癒される空間”をテーマに、スバ、アウトドア、シアターなど、リセットシーンを提案。ボーディル・ケアやアルネ・ヤコブセンなどの名作の復刻をはじめ、その哲学を受け継いだブランド初採用の米国人デザイナー、ブラッド・アスカロンの新作にも注目が。

カール・ハンセン & サン <https://www.carlhansen.jp>  
取材・文/Tomoko KONNO

1 初の米国人登用となるブラッド・アスカロンの「PRELUDIA」は、高度な3D成形技術による快適なチェアとテーブル。2 1970年代以降、生産が途切れていたハンス・J. ウェグナーのラウンジチェア「CH71」も復刻。3 アルネ・ヤコブセンの知られざる名作「SOCIETY TABLE」。スレンダーな脚と天板、エッジの革の切り込み、浮遊感のある引き出しが軽快。4 ポーエ・モーエンセンが1950年に発表した「ハンティングテーブル」は、支柱や木製のくさびなど細部まで美しい。



リッツウェル

# Ritzwell

## 世界が認めた“メイド・イン・ジャパン”の美

2008年のミラノサローネ初出展以来、今年で10回目の出展となったリッツウェル。日本のブランドながら国境を超えて愛されるデザインセンスと、卓越した職人技で生まれる繊細な仕上げで、年々注目度は増すばかり。今年はキャビネットとオットマンが新登場。

リッツウェル東京支店 <https://ritzwell.com/>



1・2 無垢材を一本ずつ細く切り分け、表面に丸みをもたせた「蛇腹戸」の引き戸など、ミニマルなデザインの中に職人技が光る。新作のサイドボード「JABARA」。引き出しの中まで手を抜かない端正な作り。木の魅力を見て、触って堪能できる逸品。3 昨年のサローネで発表された「ベアトリクス ハイバック チェア イージーチェア」に今年はオットマンも加わり、さらに快適性がアップ。

エクストレミス

# extremis



## ロマンティックな街パリをイメージした外家具

1994年に誕生したベルギーのアウトドア家具ブランド。今年のミラノサローネでは、パリスタイルのビストロをテーマに、“人が集うことをかなえる道具”としての家具3点が新作で登場。実際の展示会場も、ビストロをイメージした赤い外観で人気を集めていた。

TISTOU <https://www.tistou.jp/>



1 パリのビストロはもとより、どんな場所にも馴染むミニマルなデザインと快適な座り心地が両立したバースツール「Tiki」。2 ピクニックテーブル「Bistroo」は、横並びで座れる2人掛けの椅子とテーブルが一体化。道行く人々を眺めながらおしゃべりを楽しむパリのシーンから発想。3 最小限の表面積で最大限の日陰が得られるパラソル「Acacia」は、太陽の動きに合わせて傘の向きが自由に変えられる。